

## 都市における雨水の浸透促進：緑のダムをつくる

不浸透性の表面を流れる雨を取り込んで緑と土壌の力で地中へ浸透させる。すなわち、都市における緑のダムをつくる。雨を河川や海洋へ押し流すのではなく、陸地の雨を自然の水循環の中へ戻すために、ゆっくりと地中へ浸透させつつ浄化する装置をつくるのが、新しい雨水管理方法の中核となる。基本的には、下の図のようなシンプルな構造のもので、公有地、私有地、商業空間、教育施設、住宅地その他、それぞれの敷地状況に応じて適した形で設計される。この手法ならび概念あるいは装置そのものは、低影響開発・グリーンインフラ・雨の庭™など複数の呼び方で称される。

装置のひとつひとつは小さくても累積的に流域に影響を及ぼし、地域の水循環を再生することができる。また、気候変動による豪雨、高温などの近年の激しい気候に対する対策としても期待される。なぜならば、下の図に示されたようなさまざまな環境的、社会的、経済的恩恵があるからである。

